

ヴォーリス記念館

近江八幡市の中心街にあるヴォーリス記念館はアメリカ生まれの建築家、伝道師、実業家であり、その生涯の大半を近江八幡で過ごしたウィリアム・メレル・ヴォーリス（1880-1964）の生涯、経歴、遺産を紹介する博物館である。木造 2 階建てのこの建物は、ヴォーリス自身が設計したもので、当初は妻の満喜子が設立した幼稚園の教員寮として使用される予定だった。建設中に自宅になることが決まり、1931 年の完成後、1964 年にウィリアム・メレルが他界するまで、ヴォーリス夫妻の住居として使用された。

全体的にシンプルで、下見板張りの外壁、切妻屋根、煙突、二重窓など、西洋的な外観が特徴的である。内部は洋風だが、ヴォーリスは妻のために畳のある和室も用意した。この間取りは、ヴォーリスが個人住宅を設計する際に、生活への配慮と機能性を重視したことを示している。玄関脇には靴を脱いだり履いたりするときに腰掛けられる座り心地のいいベンチを設置するなど、居住者の利便性を高める実用的な工夫が随所に施されている。

館内には、ヴォーリスと満喜子の写真、アメリカから持ち込んだピアノ、ヴォーリス自筆の書などが展示されている。開館時間は午前 10 時から午後 4 時までで、見学は電話予約制。入館料は大人 400 円、18 歳以下は無料。月曜日と祝日が定休日、12 月 1 日から 1 月 15 日までは展示替えのため休館となる。ヴォーリス記念館は滋賀県の文化財に指定されている。